

モグラの食べものと天敵

モグラの食べもの

モグラは地中にすんでいる生きものを食べています。モグラが1日（24時間）生き延びるためには、体重の約半分の重量の食べものが必要です。体重40～76gのアズマモグラは20～38gくらい食べます。1日に3回の周期で食べものをさがすので、1回あたり7～13g食べることになります。これは体重60kgの人なら、1日に30kg、1回の食事で約10kgの食べものを摂る計算になります。

モグラの好物はミミズの仲間や甲虫の幼虫、ヤスデの仲間などと言われています。ミミズは切れないように上手に引っ張り出して食べます。



ミミズの仲間



ヤスデの仲間



甲虫の幼虫

意外に多い天敵

地中で生活するモグラは、地上に出てくることはあまりありません。でも、若いモグラが自分の縄張りをさがす時などは地上に出てくるのでさまざまな天敵に見つかり食べられてしまうことがあります。キツネやイタチ、イエネコ、フクロウ、ワシやタカの仲間のサシバやノスリ、時には人間もモグラの天敵です。



飛びながら地上の獲物をさがすノスリ



公園のきまり

- ・園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- ・立ち入ってもよい場所か確認して観察しましょう。



穴を掘ったのはだれ？



公園のあちこちで見かける、不思議な土の盛り上がり。これは一体何でしょう？
だれがこんなことをしたのでしょうか？
今日はその“なぞ”を解いてみましょう。

穴掘り名人モグラのくらし

園内のあちこちで見られる、盛り上がった土のかたまりを作るのは「アズマモグラ」と考えられています。

盛り上げた土は「いる」証拠

モグラは姿を見ることが難しい生きもののひとつです。園内での生物調査からは、これまでに何度か「アズマモグラ」が確認されているので少なくともこの種は、現在も公園にすみ続けていると考えられます。

アズマモグラは掘った土をトンネルの中から地上に押し出して「モグラ塚」を作ります。姿はなかなか見えなくても、新しいモグラ塚があればそこには「モグラがいる」という証拠になります。

なんで穴を掘るの？

モグラは一生をほぼ土の中ですごします。食べものも土の中でさがし、眠るのも土の中です。地中のくらしでは、食べものをさがすにも巣を造るにも、道や空間のない土の中を掘る必要があります。そのためモグラの前足は両手で土を横に掻き出しやすいように、大きく平らになっています。



モグラの前足

鼻でさわって確認する



モグラの鼻は、匂いを感じるだけではなく、先端の鼻の孔近くに集まっている「アイマー器官」で、場所や物にふれることで、感触や振動などを感じとっています。



8時間おき3サイクルの1日

モグラは、「熟睡している時間」と「食事や仮眠をする時間」をそれぞれ4時間ほど、1日で3回のサイクルで繰り返してくらしています。食べものをとるためにはトンネルを掘ることになりますが、うまく食べものを見つけれないと1日で餓死してしまいます。

3種類のトンネル

モグラのすんでいる場所の土の中には、モグラが掘ったトンネルが作られています。このトンネルは、目的によって使い分けられていて、中には一度しか使わないトンネルもあります。

- ①幹道・・・巣へ続くトンネル。地下30cmくらいの深いところにあります。
- ②生活道・・・食べものをさがすために幹道から派生したトンネル。浅いところなので、モグラが掘り進むと土の動きがわかります。繰り返し何度も使います。
- ③探餌道・・・生活道から派生したトンネル。食べものをとるために使い、一度しか使わない使い捨てです。

